

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	3292200023		
法人名	社会福祉法人 愛宕会		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町郡582-1番地 (電話) 08512-5-9111		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月17日	評価確定日	平成21年10月1日

【情報提供票より】 (21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算	4.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

(4) 利用者の概要 (8 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2名	要介護2	4名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広域連合隠岐病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一法人の施設が隣接し緑の多い環境のホームである。利用者の自己決定を一番に考えており、ケアプラン様式の工夫、改善により個別のアセスメントが充実してきている。職員が自分自身の性格を知りチームで対応できるように、利用者から学びながら支援している。開設来3年が経ち、利用者同士の関係が生まれ互いに誘いあったり、面会の家族にお茶をいれたり、ベランダに布団を干したりホームに馴染んで落ち着いて暮らしている。毎月1回、自発的な避難訓練や救急救命法の訓練等を実施している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを作成し、優先順位をつけて取り組んでいる。「食事づくり」は力を入れて取り組み改善している。「地域とのつきあい」も交流が多くなっている。「たよりの発行」「入浴支援」は取り組み中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が作成したものを職員全員で意見を出し合いまとめた。職員は評価の意義を理解し、改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	事業報告、利用者の状況報告、ヒヤリハットの報告、情報交換などを行い利用者も出席している。時には催し事を行っている。外部評価結果についての検討は行っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や連絡時、運営推進会議で意見や要望を聞いている。浴室の滑り止めマットや居室のフローリングは家族の要望で取り入れた。家族は要望や気づきを積極的に話され、運営に反映されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	ホームの庭をペタンクのコートに提供していて、草刈りをしてもらうことがある。地区や法人の行事を通して交流し、演芸ボランティアの来訪時には地域の人を招待している。野菜や花の差し入れもある。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立した日常生活が送れるよう援助し、「笑顔のたえない暮らし」を大切にしたい独自の理念をあげている。	○	利用者が地域の中で暮らしていく事を盛り込んだ内容になっているか、職員全員で話し合ってもらいたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目につく所に理念を掲示し、会議などで話し合ってケアの振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	野菜や花の差し入れがあったり、ボランティアや地区や法人の行事を通して交流している。園庭は老人会のペタンクコートになっていて、時々草刈りをしてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成したものを職員全員で意見を出し合い、管理者がまとめた。改善課題については優先順位をつけて取り組んでいる。	○	自己評価は年間計画に位置づけて職員全員で話し合いながら取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告、利用者の活動状況報告、ヒヤリハット報告等をし、出席者と率直な意見交換をしている。納涼祭などの催しごとをする時もある。	○	自己評価、外部評価結果も報告し、出席者の助言、協力を得ながらサービスの質の向上に活かしていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が開催する介護研修会に積極的に参加し情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子を家族の訪問時や電話で報告している。たよりは継続した発行になっていない。	○	一人ひとりの利用者の暮らしぶりを毎月お便り等で伝える工夫をして頂きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や連絡時に要望や意見を聞いている。浴室のマットや居室のフローリングは家族の要望で取り入れた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動があり、活性化のために必要と考えている。職員の異動は混乱を招かないようにタイミングをみて伝えている。職員にお別れの花を贈られた利用者がある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は外部、内部の研修に参加し、情報を共有している。毎月、ホーム内でもその時々に必要な内容で勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修会が発足し参加した。状況報告などを通じて情報を収集している。	○	今後は職員も同業者と交流する機会が増えることを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅訪問したり見学に来てもらい利用を開始している。入居後は少しずつホールで過ごす時間を増やしたり、食事づくり、趣味活動を通して、馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アラメや干し大根の料理を教わったり、利用者から「今日は元気がないようだがどうした」と言われたり、冗談を言いながら一緒に繕い物をするなど、支えあう関係ができていく。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけや接し方を工夫し利用者の思いを探ったり、入浴時での会話を大切にし、ゆっくりと話しを聞いて思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画書の様式を変え、本人、家族、知人等から好みや希望等の情報を集めてプランを作成している。	○	新しい様式にした事で、情報を整理しやすくなっているので、介護計画の充実、活用に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各目標についてモニタリングし、月1回カンファレンスを実施し、支援の統一と現状に適した介護を行っている。変化があった場合は随時、家族や関係者と相談している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり、健康管理を行ったり、受診支援、外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得したかかりつけ医による受診支援を行い、服薬や生活に関する相談をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての指針がある。重症化した時に話し合うことを考えている。	○	関係者や職員全員で話し合いを重ねて頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時は必ず声をかけることを徹底し、会話や接し方に気をつけている。入浴時の支援の仕方を利用者に注意され、プライバシーの意味を学んだこともある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体のケアを念頭に置き、起床や過ごし方など利用者の希望に沿った暮らし方が出来るよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりに力を入れ今年度から毎食ホームで作っている。利用者の力を活かしながら調理、盛り付け、片づけなど一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めて支援している。夏場は希望によりシャワー浴もしている。	○	利用者の希望に沿って、毎日でも入浴出来る職員の配置をお願いしたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な事を大切にし、お茶を点てたり、布草履作りなどしている。食事制限のある利用者への配慮から、以前取り組んでいた巻き寿司作りなどの楽しみ事が減っている。	○	楽しみごとの支援を工夫されることを望む。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	脚や腰が痛く散歩や買い物の希望がなくなってきた。車で出来るだけ出かけるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないので、利用者は自由に外に出て花壇の花を摘んだりできる。玄関を入った所が事務所で利用者の行動を把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の指導で避難、消火訓練を実施している。毎月1回、自発的な救急救命法の講習を実施している。	○	非常用の備蓄の検討をお願いしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握している。食事が進むよう希望を取り入れたり、色々な飲み物を用意し自由に飲めるようにしている。	○	定期的に栄養士の指導を受けることをお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事の写真を飾り居心地いい雰囲気づくりをしている。ソファや畳スペースがあり、思い思いにゆったり暮らせる空間作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の花壇に咲くコスモスを摘んで部屋に飾ったり、家族の写真、水筒、カセットなど好みの物を置いている。自分でベランダに布団を干している人もいて、落ち着いて生活している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。